

小院瀬見新聞

2026年1月号

小院瀬見新聞社

〒939-1764
富山県南砺市
吉見70番地
編集担当 中島健二
電話080-6359-3992

旧即成寺の鐘楼

小院瀬見集落で20年前に惜しまれて廃寺となった即成寺跡に唯一、形見のように残る鐘楼で、昨年12月の大みそかから今年の元日にかけて、立派な鐘の音が鳴り響いた。3年半前に金沢から移住した黒梅明さん(77)が朽ちていた撞木(しゅもく)を作り直して復活させた除夜の鐘。今や恒例となったが、今年の春に完全移住することを決めた黒梅さんは特別な思いも込めたという。



黒梅さんが復活させた撞木で除夜の鐘を撞く参加者

完全移住へ響け除夜の鐘

撞木復活の黒梅明さん

鐘楼は集落の中心部でひとときわ立つ所にある。江戸時代に開基された即成寺。廃寺後の令和2(2022)年には本堂などが取り壊されがらんとした跡地の鐘楼で使えなくなっていた撞木(しゅもく)の目をとった。移住を決めて準備をしていたこのころ、地元の人々の役に立ちたいと思いついて、材料のシュロの木を伐り出し、3カ月かけて作り直した。その年の大みそかから毎年続く除夜の鐘には、わずか4世帯の限界集落に多くの人々が訪れる。昨年末も、代々集落に暮らす水口登洋治さん(83)のぶさん(78)夫妻はじめ住人や出身者、集落の田園で自然栽培の米づくりを行っている、榎田を



小院瀬見愛を込めて鐘を撞く黒梅さん

自然に育つ

再生して田畑に通ったりする有志グループのメンバーらが続々詰めかけた。黒梅さんが声をかけ、1人5回ずつ撞(つ)いて無病息災などを祈った。「村の人がみんな集まって、この地で自然を守りたい」という人が来て、毎年やれることがうれしいと黒梅さん。今回は特に力が入った。いずれ体が動かなくなったら戻ろうと残しておいた金沢の家を処分し、小院瀬見の家を終の棲家(すま)にするつもりだ。その役目も終える。間もなく、その役目も終える。ヤギたちを育て、地域にさらに溶け込んでいく。

地域落け込む

「村の人がみんな集まって、この地で自然を守りたい」という人が来て、毎年やれることがうれしいと黒梅さん。今回は特に力が入った。いずれ体が動かなくなったら戻ろうと残しておいた金沢の家を処分し、小院瀬見の家を終の棲家(すま)にするつもりだ。その役目も終える。間もなく、その役目も終える。ヤギたちを育て、地域にさらに溶け込んでいく。



照明で夜空に浮かぶ即成寺の鐘楼

集落の2025

2025小院瀬見の1年	
1月	吉見の方衆による小院瀬見から参詣(13日)
2月	配給物大車で一掃集落(15日)
3月	再々小院瀬見公民館の古道具展(20日)
4月	この年最初の打ち上げ(26日)一年間4回実施 集落探検隊が山岳電通等水場調査(26日) 監玉山麓の静遊で山家探りの市内男性会に 参加(3日)
5月	家この年は秋にかけ全国でクマ警備訓練 福光殿在材料のカラムシ栽培開始(20日) 探検隊が富山石川原探検のジュンサイ花を 調査(21日)
6月	嵐降る少雨が続き7月にかけ湯水鉄線 集落前の山脈にCass山脈が設け
7月	晴天、蕎麦の収穫まで田のひび割れも 一瞬、雨不降る。農道で土砂が水路を必 要に詰まらせた(7日)
8月	南砺の系文化研修で美大生が福光集落 学ぶ(2~5日)
9月	ハニコ田園の精刈り、上々の収穫
10月	福光集落バスツアー(3日)
11月	集落によう再販ワークショップ(8日) この年最後の打ち上げに60人(29日)
12月	恵山で計産のデータセンター説明会(3日) 集落にこの冬の初詣(4日)

激動の昨年、大雪に猛暑に長雨、翻弄された集落。大みそかの除夜の鐘を聞いていたら2025年増。小院瀬見では山菜取りの最中に襲われ負傷した人もいた。記録的な大雪で除雪に明け暮れ、夏は湯水に誘致構想が浮上。里山緑地広場に巨大施設が開発された。日本中が驚き、震え上がった。この情報が驚嘆されたい。

餅つきに落語で祝

小院瀬見の田園で自然栽培のつきや食事を楽に行っている一般社団法人「Honey & Cotton」(ハニコ)は昨年12月21日、集落内の古民家・山口家の「めぐる」で「感謝の日」のイベントを開き、ハニコメンバーとその家族らとともに、昨年収穫できた作物などを食べた餅つきを楽しんだ。餅つきは、今年採れたもち米の玄米を蒸して使用。臼と杵で参加者が代わって打つ。子供たちも頑張った。つきたてのお餅をいりし、和やかに語りながら味わった。夜には鍋料理も振舞われ、舌をキリギリスさんが見事な落語で大いに盛り上げた。



もち米の玄米で餅つき楽しむ

2面フォトコン受賞作決まる 被災地支援イベント

「西太美秋の美しさ」競演 地域づくり協フォトコン入賞決まる

西太美地域づくり協議会が地元の「秋の美しさ」をテーマに昨年10月1日〜12月10日に実施したフォトコンテストの入賞作品10点が決まり、1月8日に発表された。地域のことを好きになつて関心を持ってもらおうとの狙いで季節ごとに実施しており、協議会は今後、入賞作が撮影された場所を回るツアーも企画するといふ。

部門ごとの入賞作品は、一般部門1位は南砺市「駆け足で通り過ぎる秋」、日西孝明さんの「駆け足で通り過ぎる秋」。雪が積もり始めた医王山とその手前の紅葉で黄色く色づいた樹木のコントラストが秋から冬への移ろいを美しく表現している。

ふるさと小中学生部門は小院瀬見の西井美里さん（福光中学校1年）の「小院瀬見神明宮」で自然石で組まれた極めて珍しい鳥居を撮影した。この鳥居は、一般部門3位の平木叙光さん（砺波市太田）の「仁王立ち」も下から見上げるアングルで撮影しており、医王山と並んで人気のフォトスポットになっている。

協議会は1月17日午前9時半からイオックスアローザスキ場のゴンドラ乗り場前で表彰式を行う。31日まで入賞作品を展示する。



一般部門1位「駆け足で通り過ぎる秋」日西孝明さん



一般部門2位「静かな流れ」片岸勉さん



一般3位「仁王立ち」平木 叙光さん



一般3位「八角堂」川辺 弘さん



小中生1位 西井美里さん



小中生2位 土倉果歩さん



小中生3位 森井瀬夏さん

入賞した皆さん

- 【一般部門】
 1位=日西孝明 (南砺市福光) 「駆け足で通り過ぎる秋」
 2位=片岸 勉 (南砺市遊部) 「静かな流れ」
 3位=平木叙光 (砺波市太田) 「仁王立ち」
 3位=川辺 弘 (南砺市才川七) 「八角堂」
- 【ふるさと部門・小中学生】
 1位=西井美里 (福光中1年) 「小院瀬見神明宮」
 2位=土倉果歩 (福光南部小2年) 「キバナコスモスとトンボ」
 3位=森井瀬夏 (福光南部小5年) 「医王山の初雪」
- 【ふるさと部門・高校生以上】
 1位=中屋 望 (南砺市広谷) 「ダブルレインボー」
 2位=西川功敏 (南砺市才川七) 「西太美神社」
 3位=吉田美穂子 (南砺市才川七) 「晩秋」

小院瀬見の黒梅さん作詞披露

「復興歌」の黒梅さんが、今年も「新春コンサート」の作詞披露を行いました。今年も昨年同様、会場は特に盛り上がりました。会場は特に盛り上がりました。会場は特に盛り上がりました。

「復興歌」の黒梅さんが、今年も「新春コンサート」の作詞披露を行いました。今年も昨年同様、会場は特に盛り上がりました。会場は特に盛り上がりました。

「復興歌」の黒梅さんが、今年も「新春コンサート」の作詞披露を行いました。今年も昨年同様、会場は特に盛り上がりました。会場は特に盛り上がりました。



能登半島地震の被災者支援 今年も25日に新春コンサート

能登半島地震の被災地、今年も25日に新春コンサートを開催します。能登半島地震の被災地、今年も25日に新春コンサートを開催します。

能登半島地震の被災地、今年も25日に新春コンサートを開催します。能登半島地震の被災地、今年も25日に新春コンサートを開催します。

能登半島地震の被災地、今年も25日に新春コンサートを開催します。能登半島地震の被災地、今年も25日に新春コンサートを開催します。



高校1位 中屋 望さん



高校2位 西川功敏さん



高校3位 吉田美穂子さん

山里に巨大データセンター開発へ



南砺市12月市議会にて市有地の売却が議決された旧里山緑地広場。4月に「南砺キャンパス」の造成が始まる



南砺キャンパスのイメージ（ギガ社ホームページから）

人工知能（AI）を動かす高度な情報などを大量に保管したり処理したりするコンピュータを集積させたデータセンター（DC）と呼ばれる施設が、南砺市の小院瀨見から才川七にかけての中山間地に整備されることが明らかになった。施設を建設・運用する事業者は未定だが今春に造成工事が着工、稼働すれば国内最大規模になるといわれる。税金増や関連企業誘致、地元振興が期待される一方で、過剰な電力消費や環境影響などを懸念する声もあり、推移が注目される。

「国内最大」に集落驚愕 旧里山緑地広場 4月に造成着工

DCの立地を進める土地開発事業者（Gigastream）が、南砺市（井波町）本町のタニエル・コックス社長と、同市の田中幹夫市長が昨年12月10日、市役所で記者会見して計画を発表した。会見の資料や市、ギガ社への取材、同日3日に西太美交流センターで市が開いたギガ社が造成地を事業者に賃貸か売却する形で操業開始を目指す。

運用事業者誘致へ「ハワイでアピール」 1月下旬に米国ハワイ州ホノルル市で開かれる通信事業者などの国際会議「パシフィック・テレコミュニケーションズ・カウンスル（PTC）」でタニエル社長が誘致へのアピールを行う。田中市長も同行する見

た地元説明会の内容などを総合すると、DCの開発は段階的に進められる。第1段階では、小院瀨見と才川七の境界一帯にある福光里山体育館や隣接のグラウンドとその周辺、野地溜池の南側の山林などの主市所有地約130ヘクタールを取得して整備する。市有地は、昨年12月に市議会が約1億8900万円で購入する議案を可決し、今年4月から造成工事を始めて、開発地にDCを建設してコンピュータ装置類を配備し使用する運用事業者に賃貸し、3年後をめどにギガ社が造成地を事業者に賃貸か売却する形で操業開始を目指す。

通し。米国のグーグルやアップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフトといった大手をはじめとするIT企業などを対象にする考えだ。大都市圏を主体に全国各地で稼働、あるいは整備計画が進むDCの中でも南砺市の施設は規模の目安となる。DCの規模の目安となる装置類が消費する電力量は、第1段階だけで400メガワットで単体のDCとしては国内最大級になる。



DC整備で記者会見するダニエル・コックス社長（南砺市のホームページから）

AI普及でDC整備急拡大

スマートフォンの使用は頻りに増え、大量の機器類と高速回線をもつデータセンター（DC）の整備を拡大させてきた。AIの普及が日本での整備を加速させてきた。IT（情報技術）専門調査会社の「IDC Japan」によると、2025年の推定施設数は国内で500〜2200ほどに達し、今後さらに増える見通しという。 これまではデータの利用者とDCの間が離れているとデータの通信の遅れが大きな利用時に影響がでることから、都心はじめ都市部での建設が主だったが、最近では地方への分散が進んでいる。災害などリスク回避を進む地方分散

「リスク回避 進む地方分散」 ギガ社「南砺は最適の地」 スマートフォンなどの大量の機器類と高速回線をもつデータセンター（DC）の整備を拡大させてきた。AIの普及が日本での整備を加速させてきた。IT（情報技術）専門調査会社の「IDC Japan」によると、2025年の推定施設数は国内で500〜2200ほどに達し、今後さらに増える見通しという。 これまではデータの利用者とDCの間が離れているとデータの通信の遅れが大きな利用時に影響がでることから、都心はじめ都市部での建設が主だったが、最近では地方への分散が進んでいる。災害などリスク回避を進む地方分散

小院瀨見新聞 号外 千939-1764 富山県南砺市吉見70番地 編集担当 中島健二 電080-8359-3992

DCで特別編集紙面 小院瀨見地内での大規模プロジェクトが明らかになりました。関係者の談話などを収録して集約的に取材し、特別編集紙面として掲載します。

大規模DCC心配なくせるか

質問・意見交換会相次ぐ

南砺市の小院瀬見から才川七にまたがる中山間地で昨年末に開発構想が発表されたデータセンター(DCC)を巡り、計画を進めるギガストリーム富山と市が、住民や、環境への影響を心配する市内外の関係者らと情報・意見交換する質問会が1月末から2月初めにかけ市内で相次ぎ開かれた。内部に配備される大量の装置類の冷却に伴う排水や排熱、電力消費量などが焦点となり市やギガ社が回答。今後も継続して対話を続けていくことに合意した。

計画用地がある西太美の地域づくり協議会が主催し、1月27日に西太美交流センターで開いた「情報交換会」は、地域の各地区住民が58人が参加。説明者側はギガ社のタニエル・コック代表取締役、梶井剛・開発統括、市ブランド戦略部の若佐崇部長、西井有年工業立地課長のほか、造成工事の設計を行う大日本タイヤコンサルタントの担当者らが出席した。

冒頭、コック氏が「南ス氏はエアコンのように冷房キャンパス」として構想DCC集積地開発の概要を説明。この中で、今春から用事業者を決める際の条件に「ほとんどの水を使わず外にも出さない」と説明した。造成工事では計画敷地内だけで緑土し造成にあてることで外からの土の搬入輸出をほとんどせずに進める考えを示した。

市側は、今回の計画浮上後の地元への説明時期が遅れたことを謝罪。環境調査の必要性について準備を進めていることや、先行地域視察も行うとした。

今後も対話継続へ

「1社か2社になる」との見通しを明らかにした。機器類の冷却については協議会の山下透会長が基本質問としてただし、コック氏はエアコンのように冷房キャンパス」として構想DCC集積地開発の概要を説明。この中で、今春から用事業者を決める際の条件に「ほとんどの水を使わず外にも出さない」と説明した。造成工事では計画敷地内だけで緑土し造成にあてることで外からの土の搬入輸出をほとんどせずに進める考えを示した。

市側は、今回の計画浮上後の地元への説明時期が遅れたことを謝罪。環境調査の必要性について準備を進めていることや、先行地域視察も行うとした。

西太美フォトコン表彰式



表彰式で記念写真に収まる入賞した皆さま

西井美里さん(小院瀬見)ら入賞の10人に賞状

西太美地域アローサスキー場 Gondola づくり協議会が昨年秋、地元の秋の美しさをテーマにしたフォトコンテストの表彰式が1月17日、南砺市才川七のイオックスは、協議会の山下透会長が快晴の下で行われた式で、協会の山下透会長が

「初雪を待つ撮影」一般部門1位の日西さん

「160点以上の応募があり改めて西太美の美しさを感じていただいたのではないかとあきつ」といひ、1人ひとりに賞状などを手渡した。

冷却はエアコン様の方式採用

情報交換会や質問・意見交換会の質疑内容は3月号で詳報する予定です。



西太美の情報交換会で説明するギガ社や市関係者



「未来を考える会」などが開いた意見交換会

大美山地域づくり 真冬の企画



「ふとみやま こっつお なべ祭り」で懸命に餅をつく参加者

鍋とお餅でほっこりたっぷり

鍋料理つきたての餅を食べて語り合う「こっつおなべ祭り」が2月1日、南砺市の太美山交流センターで開かれた。寒い中でも美味しい料理で交流を深めようと太美山地域づくり協議会が昨年からの真冬の時期に開いている。2回目のこの日は100人分を一度に調理できる大鍋で豚バラ肉やハクサイ、きのこなどを煮込んだほか、地元太美山地区で自然栽培されたきんぴもち米を使って餅つきをした。

能登で被災地支援コンサート

2024年1月の被災後間もなく民主団体など権利が奪われた能登半島法で保障が不足させた被災者支援センターは1月25日、石川県津波被災者共同支援センターを講演した。被災地支援新春コンサートを開いた。昨年、今年に続いての開催は、セラシタの事務局長で小院の名曲な瀬見在住の黒梅明さんなどが次々活動の締めくくられた。



癒しと感動を届けた新春コンサート(実行委員会提供)

復興歌「トキが舞う」全員合唱

小院瀬見の黒梅さん作詞、復興歌「トキが舞う」全員合唱。黒梅さんは「住み続けたいと願う人の人権を守る能登の復興を必ず実現させましよう」と訴えた。